

令和6年度

神戸リハビリテーション衛生専門学校

学校関係者評価報告書

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン 準拠

学校法人スマレ・アカデミー

1. 学校関係者評価の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己評価報告書（令和6年度）」について、本校に関係の深い3名の評価委員（委員名簿）に評価していただいた。

評価委員には、学校運営状況をまとめた資料を配布し、学校自己評価報告書の内容について説明した上で意見等を聴取した。

2. 学校関係者評価委員会 委員

氏名	所属	選出区分	任期
中元 恵一	医療法人社団 堇会 理事	(1)	1年
安井 翔一	伊川谷病院 リハビリテーション科	(2)	1年
稲葉 浩之	介護老人保健施設すみれ苑	(3)	1年

3. 本校出席者

氏名	役職・所属等
嘉戸 直樹	校長・理学療法学科 学科長
久保田千尋	歯科衛生学科 学科長

4. 日時・場所

令和7年5月12日（月） 16時～17時30分
神戸リハビリテーション衛生専門学校 会議室

5. 委員会 次第

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶
- (3) 学校評価に係る経緯説明
- (4) 令和6年度 学校自己評価報告
- (5) 意見交換
- (6) 閉会

6. 議題等

(1) 学校長挨拶及び趣旨説明

学校関係者評価委員会設置の経緯及び「職業実践専門課程」における委員会の位置づけについて説明した。

(2) 学校関係評価に係る経緯説明

「学校関係者評価基本方針」「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省）」等の資料に基づき、学校関係者評価委員会の設置された経緯や委員会の位置づけや目的について説明した。

(3) 令和6年度 学校自己評価報告

本年4月に作成した「学校自己点検・評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告があった。

(4) 意見交換

学校自己点検・評価報告書の内容を踏まえ、今後の学校運営の改善点等について、次のような意見を頂いた。

① 教育理念・目標について

(委員より)

- ・教育理念や目標については、引き続き現場との連動を心掛けながら育成人材像を明確にして、学生・保護者・教職員が共有していくことを心掛けてほしい。
- ・アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに加え、アセスメントポリシーを策定して公表している。

② 教育活動について

(委員より)

- ・教育課程編成委員会の意見を反映させ、関係施設等と連携して、引き続き実践的な職業教育に努めてもらいたい。
- ・授業評価に基づく学内研修を、体系的に実施してほしい。

③ 学修成果について

(委員より)

- ・理学療法学科では、依然として退学率が高い傾向にある。学校説明会や入学前教育において、業務内容や学習内容の理解を深めるとともに、入学後は早期から職業がイメージできるような体験を増やすといった対策を継続してほしい。

- ・卒業生を対象としたアンケートの回収率がそれほど高くない。昨今、臨床では短期間で離職する職員が増える傾向にある。アンケートの実施方法を見直すなどして、キャリア形成への効果を把握する必要がある。

④ 学生支援について

(委員より)

- ・学生のニーズに応じて、課外活動に対する支援体制を整備してほしい。
- ・保護者会の設置等、保護者との適切な連携に努めてもらいたい。

⑤ 教育環境について

(委員より)

- ・両学科とも、学内教育と学外教育のコンセプトの一致が図れている。今後もシームレスな学びを考慮した実習先の選定に努めてもらいたい。
- ・校内への Wi-Fi の設置やタブレット端末の導入（理学療法学科）により、効率的な学習を支援することができている。
- ・海外研修の必要性を検討する必要がある。

⑥ 学生募集について

(委員より)

- ・両学科とも、定員が埋まっていない。少子化の影響により厳しい状況が続いているのは認識しているが、引き続き医療法人を母体とする学校としての強みである臨床の連携や、教育の内容、利便性の高さなどを訴えて、学生確保に努めて貰いたい。
- ・両学科とも、職業理解を促すような取り組みを継続してほしい。

(5) 閉会

たくさんのご意見をありがとうございました。今後は、各評価委員から頂いた貴重なご意見・ご助言を真摯に受け止め、より質の高い教育、学校運営を実現すべく教職員一同努力してまいります。

引き続き暖かいご指導とご協力をお願いいたします。

以 上